

2024年1月24日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第5期 第7回（通算66回）

教育の情報化とICT活用リテラシー向上に関する総務省の取組

1. 内容

- ・幅広い世代を対象としたICT活用のためのリテラシー向上推進
- ・教育の情報化に向けた取組
- ・情報バリアフリー・アクセシビリティの確保に向けて

2. 所感

デジタル共生社会の実現に向けて、リテラシー向上も障害者支援も、社会の意識を変えていくことが大事。具体的に政策に落としにくい分野であり、多くの関係者と連携して、業務を進めていくにはどうしたらいいか？

初めに現状の問題点を整理してご紹介いただきました。アテンションエコノミー、フィルターバブル、エコーチェンバー、視聴履歴やその時間に経済価値があり、自分に関心があるコンテンツや広告が表示され、視野が広がらない。自分の発信に対して似た意見が返ってくるなど、それらが無意識に合理的ではない行動や判断に繋がる、また、反射的な思考や反応が重視されてきているが、熟慮や分析、検証といった機会の確保が必要な時代になっていると。更には、容易に発信ができるようになっており、それにより人を傷つけたり、責任を問われることがあることから、トレーニングが必要であるとも。総務省で検討中のリテラシーの全体像と指標の整理案をお見せいただきました。5つの分類とそれぞれに4段階のレベルを設けて整理されていました。続いては学校や学校以外で学んだ内容のデータ利活用、PDSの話でしたが、学校の負担にならないような保護者同意の取り方とデータリテラシー、社会的な認識を高めていく必要があるという課題感をお話いただきました。令和六年、これから実証実験を行うとのこと。質疑では、一人一台端末を使わせたいがセキュリティーの問題で躊躇する、生成AIは私立学校と公立学校では差が出ているといった現場の状況も共有されました。子どもたちの創造性発揮を積極的にリードしてほしいといった西さんの想いもいただきました。最後は、バリアフリーのお話で、情報デバイスには突起がない、また、デジタル教科書など学校の中では一部対応がされているが、社会に出るとそうはなっていないという現状の学びのシーンにおける課題と社会との接続の問題が質疑では取り上げられました。既に対応するサービスが世の中にあるケースもあるが、なかなか伝わらない、特別支援学校の高等部へのアプローチが必要になるのか、など意見交換がされました。赤堀会長から全面的に協力させていただくという発言がありました。デジタル共生社会の実現に向けて、自分自身、意識を高めて、お力添えをさせていただければと思います。

西さん、本日は、意識しないと行動範囲に入りにくい、それであって非常に社会的意義を感じる貴重なお話をいただきまして誠にありがとうございました。

以上